



さあ！ すぎるぞ～

飯山雪まつりにあわせ開催した秋津雪だるままつりは、天候にもめぐまれ、多くの皆様に楽しんでいただきました。今年は雪祭り実行委員会の協力で雪の搬入量が多く、併設された「滑り台」も長く取れ子ども達には大好評でした。

今年は地区全体の取り組みとするため、多くの小学生も参加して前夜祭を実施しました。雪だまを使った灯ろうを20個ほど作り、外様地区の協力で作った「かまくら」の周りに配置しようそくを点

第12回 秋津雪だるままつり

秋津公民館

すと、やわらかい明かりが幻想的な雰囲気をもし出し、癒される気分になりました。

当日のイベントでは「トン汁」サーブが大盛況で、2日目の午前中で終わりになっていました。また、とな



大盛況の直売コーナー

りのキノコを中心とした、産地直売コーナーの売れ行きも好調で、お出でいただいた市内外の皆様にたくさん買っていただきました。特に更生保護女性会をはじめとする地区の皆さんが作った「やしうま」は大好評で、当初の予定を1日目で売り切り、追加作製して販売するほどでした。ビンゴゲームもあり、意外なサービスも実施しています。

来年はさらに多くの皆様のお出でをお待ちしています。

瑞穂

◇親子やしうま作り

2月11日(木・祝)に伝統文化再発見事業として、親子やしうま作りを開催しました。



うまくてさるかな？



おいしかったよ！！

当日は「親子」「夫婦」など参加の形態は様々でしたが19名の参加があり、和気あい

あいとした雰囲気の中、講座が進んでいきました。

当日講師をお願いした石川春子さんからは、わかりやすく丁寧な指導していただいたため、子どもたちも一生懸命取り組むことができました。

講習後には、石川さん作製の、程よい甘さとモチモチの食感が何とも言えない「お手本」を試食して結びとしました。参加者の皆さんは、自分で作って持ち帰るやしうまもこんな感じだろうなあと、思ったかどうかは定かではありませんが、おいしそうに頬張っていました。

外様

◇寒中利きそば会

2月21日(日)に開催しました。外様そば打ち10人衆と



名人たちの競演

木島平の名水火口そば名人の総勢17名が夢の競演。利きそば参加者は17のそばを食べ比べ、おなかいっぱいの会となりました。

常盤

◇常盤公民館運営審議会

2月6日(土)午後、他の六団体総会と併せて地区活性化センターで開催され、平成22年度の事業計画・予算等が承認されました。

◇第1回 男の料理教室「うどんを打ってみる」



つくって

2月27日(土)午前10時から柳新田の滝沢しづ子さんを講師に常盤公民館で開催しました。

男性13人、女性8人(ご夫婦1組)と大勢の参加者があり、最後は、男性だけで洗

いのけ」をして終了しました。楽しかったうまかったなど、とても好評でした。

次回は6月頃に「魚のさばき方&魚料理」です。



食べて



片付けまで含めて

◇「善光寺縁起絵伝」解説講座
柳新田区に保管されていた「善光寺縁起絵伝」の貴重な

太田

◇太田地区団体総会を開催

3月14日(日)に、太田地区活性化センターにおいて、団体総会が開催され、それぞれの事業が承認されました。

◇桜まつり ふれあい広場

公民館周囲にぼんぼりをぶら下げて、桜の木のライトアップを行います。

4月17日(土)から25日頃まで、行います。ご覧になってください。

◇第2回恋する太田参加者募集

日時 4月24日(土)
午後7時～午後9時開催
会場 太田地区活性化センター ふれあい広場
・会費 1,000円
・参加資格 独身男女30名
詳しくは、太田公民館までお問い合わせください。

とみくら山菜まつり 「ボランティアスタッフ」募集



「山菜まつり」は昭和61年から続いており、「そば」や「笹ずし」などの伝統料理をはじめ季節の味、地域の味などの食文化を次世代に継承してきましたが、高齢化や担い手不足によりこうした「まつりイベント」を今後も続けることが難しい状況にあります。

そこで、一般市民の皆様の中で富倉の「まつりイベント」に興味があり、趣旨にご賛同いただける方に「ボランティアスタッフ」としてご協力をお願いしたいと考えております。

◇日程 5月8日(土)、9日(日)
8日は準備のみ

◇業務内容 会場設営、駐車場整理、飲食販売、イベント運営及び、その準備

◇募集人員 数名(会場までの交通手段が確保できる方)

◇申込締切 4月16日(金)

◇申込先 富倉活性化センター Tel.67-2136

◇説明会 4月下旬予定(申し込みされた方に直接ご連絡します。)

「失言について」

飯山市役所 建設水道部長 稲生 孝

人権
学習シリーズ

人の一生の間には、どうしても言葉の上での失敗があります。何気なく不用意に伝わってしまった言葉のために、思わず相手を苦笑させたり、非常に不愉快な思いを持たれたりします。そして相手の気持ちを損なってしまったり、自分自身の人格を下げってしまう結果になることがあります。

このようなことが「失言」といわれるもので、時と場合によっては一つの失言のために破局的な大変な事態に追い込まれることも意外に多いものです。

失言は、ほとんどの場合、相手の立場や気持ちをうっかりして、心して聞いていなかったときに起きることが大部分のようです。相手の話をよく聞いて、注意をしていけば、その人の気持ちや話の内容も良く理解することができるし、その理解の

上にたって応答をすれば、それほどトンチンカンな受け答えや、見当はずれな言葉が出るわけではないはずです。

人間というものは、一旦感情を害するようなことを耳にしてしまうと、それが長い間、心のどこかに残り、仲々消えないことが多いものです。

昔から「口は禍のもと」とか「ころばぬ先の杖」という言葉が伝えられています。こうしたことを避けるためには、当を得ている教えであるといえます。

この教えに順応するためには、失言となってしまった状況とその発言の内容を思いおこし、それによって引き起こされた結果をよく考えてみる必要があると、これを他山の石とすることが何よりの近道ではないかと思います。